

### 第3回 兵庫水素社会推進構想改定検討会 議事要旨

- 1 日時  
令和8年1月8日（木）10時00分～11時30分
- 2 場所  
兵庫県庁2号館5階会議室
- 3 出席者  
出席者名簿のとおり
- 4 議事
  - （1）これまでの検討内容と今回の議事
  - （2）ひょうご水素社会推進会議の意見と対応方針
  - （3）兵庫水素社会推進構想（素案）
- 5 発言要旨
  - （3）兵庫水素社会推進構想（素案）

<論点1>「取組の方向性」にかかる課題認識や取組方針などについて

- ・水素の価値がまだ十分に認められていないことが課題。普及や啓発だけでなく、水素の価値に応じた価格面への支援が水素の利用拡大に向けて必要。水素の価値が評価されることが普及につながるので、その点をしっかり反映してほしい。
- ・兵庫県ならではの強みをはっきり示した上で、取組の方向性を示すとわかりやすい。取組に対する自治体の支援策も記載するよう検討を。
- ・県の地理的優位性や産業構造の特徴をより具体的に示すべき。また、短期・中長期の視点を踏まえ、水素需要がどの地域から始まり展開していくのかを示してはどうか。例えば、モビリティは水素需要は小さいものの、県民にとって親和性が高いため、これを切り口にする等。
- ・県民や企業が水素の環境価値を認めて動き出すことができれば、それが兵庫県の強みとなる。水素焙煎珈琲などの事例が芽生えている。
- ・県民理解や機運醸成は重要な取組。安全への取組も情報発信することで、より理解が深まる。さらには、高いけども活用する、利用するといった行動変容に繋がるような取組が必要。
- ・兵庫県の強みとして、水素関連のブランドや技術力の高い中小企業があるため、これらをしっかり支援することが重要。また、水素社会を推進する県の姿勢をより強く打ち出すことで、中小企業に「県が本気で取り組んでいる」と伝わり、水素への参入意欲を高められる。
- ・水素の価値をわかりやすく伝え、理解を深めることが重要。水素社会の見える化に向けた普及啓発は、産学官連携のもと行政が積極的な取組を。
- ・イノベーションの促進に向けた人材育成において大学の役割は重要。

＜論点２＞「取組の方向性」について

- ・ 全体的な方向性については理解できる。背景が示されると、より分かりやすくなる。
- ・ 国際情勢や供給リスクに応じた柔軟な対応方針を記載してはどうか。
- ・ 世界情勢の変化に対応しつつも、取組が先送りされないよう、水素社会に向けた指針としての方向性をしっかり打ち出して欲しい。
- ・ 普及啓発・理解促進の分野では、短中期・中長期の違いが曖昧。整理及び特に中長期の内容充実を。
- ・ 水素の安全性確保に関する普及啓発は、継続的に取り組むべき課題。
- ・ 普及啓発として、若い世代に県内の水素設備を見学してもらう機会を設けることが、将来的な水素利活用や人材育成の上で重要。
- ・ 大学としても小中高生に対して、教育の観点から水素の重要性や安全性確保についての啓発を県と連携して進めたい。

(以 上)